



# 観る人に感動を 夜空に描く大輪の花

柿木 博幸さん (本庄町)  
株式会社柿木花火工業 代表取締役社長

撮影場所：同社第二工場

日本の夏の風物詩「花火」。一瞬にして夜空を輝かせ、人々の心を魅了する花火の打ち上げに欠かせないのが「花火師」の存在。柿木博幸さんは、県内唯一の花火メーカーの職人として、花火の製造・開発を行っています。シーズンのピークは7～9月。この時期、市内はもとより、各地で開かれる花火大会や競技大会に出場するほか、運動会やイベントの開催合図の依頼を受け、慌ただしい日々を過ごします。「学生の頃は、祖父・父と続く花火屋を継ぐつもりではなかった」と、柿木さんは振り返ります。一旦は市内の企業に就職するも、周りからかけられた言葉や全国でも指折りの花火師との出会いなどがきっかけとなり、25歳で花火師を志すことに。静岡の大手花火工場で5年間修業を積みました。

地元に戻ってきてからは、花火の歴史や伝統を大切にしつつ、「昔からのやり方をそのまま続けるのではなく、新しいことを始めたい」と考え、独創性に富んだ花火を次々と開発。中でも特に、環境に優しい「エコ花火」の開発に力を注ぎました。従来の花火では、打ち上げ後に割火薬や玉皮(外殻)の一部が燃えカスとして地上や水上に降り、周辺を汚してしまいます。試行錯誤の末、割火薬を完全に燃え尽きる材料に代え、また、水分を含むと溶けて自然に還る玉皮を使用することで、ゴミをほとんど残さない花火の開発に成功しました。現在は、ヨシ紙を使った花火の開発に乗り出しています。「試作花火の評価や近くの田んぼで行う試し打ちも、地元の人の理解と協力があってこそ」と感謝の言葉を口にする柿木さん。

火薬を扱う花火の世界は危険と隣合わせ。それでも、「もっと人々を楽しませたい。そのために、ひたすら努力し、情熱を傾けます。秋田や長野での新作花火の競技大会に出場し上位入賞。「競技大会に出ることで腕を磨き、地元長浜の皆さんやこれまでお世話になった人たちに恩返ししたい。また、機会があれば世界の名だたる大会でも打ち上げたい」と、柿木さんの挑戦は続きます。「花火は童心に帰ることができ、無心になれるものだと思う。多くの人に観に来てほしい」と笑顔で話しました。この夏「長浜・北びわ湖大花火大会」、「木之本大花火大会」、「あざいあっぱれ祭り」など、柿木さんの想いと情熱が込められた花火が夜空を焦がします。

## Smile \* Smile \*

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報室(☎65-6504)まで申込みください。

外遊びと、絵本が大好きな夢希菜。いっぱい遊んで、笑顔のステキな、優しい子になつてね。



饗場 夢希菜ちゃん (平成25年3月生まれ) (八島町)

箕浦 諒ちゃん (平成25年8月生まれ) (一の宮町)



産まれてきてくれてありがとうー元氣いっぱいーちゃんやいっはーいーをくさん遊ばすっわ♡

まこの人口	平成26年7月1日現在	人口 122,103人	男 59,683人	女 62,420人	世帯数 44,495世帯
	平成26年6月中の異動	転入 274人	転出 232人	出生 84人	死亡 98人 婚姻 51件